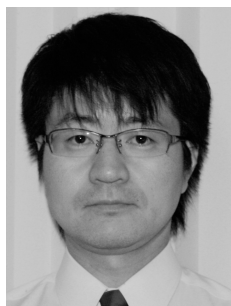


## ～ 林原賞 ～



朝倉 昇司

## 略 歴

昭和45年8月7日生  
平成8年3月 香川医科大学医学部卒業  
平成22年9月 岡山大学大学院医歯学総合研究科修了  
平成8年5月 岡山大学医学部附属病院第二内科  
医員（研修医）  
平成9年6月 香川労災病院内科 研修医  
平成10年4月 亀田総合病院血液内科  
平成11年4月 愛知県立がんセンター血液化学療法部  
平成14年4月 岡山大学医学部附属病院慢性呼吸器疾患部 医員  
平成17年4月 岡山医療センター血液内科  
現在に至る

## 研究論文内容要旨

同種造血幹細胞移植（HSCT）は造血器悪性腫瘍に対する細胞免疫療法として広く用いられているが、主たる合併症である移植片対宿主病（GVHD）と移植後の腫瘍再発がまだまだ大きな課題である。我々はマイナー組織適合性抗原不一致骨髄移植のマウスモデルを用いて、レシピエント側の非血液細胞に発現する同種抗原がGVHDを増強し、抗腫瘍効果である移植片対白血病効果（GVL効果）を減弱していることを証明した。更にそのメカニズムにはPD-1/PD-L1系を介するT細胞疲弊が関与しておりPD-1/PD-L1経路の阻害によりT細胞のエフェクター機能が回復しGVL効果が改善したことから、活性化されたドナーT細胞が標的臓器に浸潤してGVHDを発症し、その過程でPD-1/PD-L1系を介してT細胞疲弊を起こしGVL効果を喪失してゆく一連のメカニズムが明らかになった。

本研究で得られた結果は、GVHDとGVL効果を明確に分離するための新たな方向性を示すものであり、同種造血幹細胞移植をより効果的な細胞免疫療法へ発展させるための基盤となり得る研究である。